様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３３３００９４

研究課題名（和文）ライフイベントと経済行動：家族の相互扶助機能の観点から

研究課題名（英文）Life Events and Economic Behavior: From the Viewpoint of the Functions of Family Mutual Assistance

研究代表者
若林　緑（Wakabayashi, Midori）

東北大学・経済学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：６０３６４０２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　15,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、家族構造（晩婚化・未婚化、拡大家族化・核家族化、離婚など）の変化とそういった家族を取り巻く経済的な選択・行動とがどのように相互に関連しているかを明らかにすることであった。本研究課題では多岐に渡る研究を行ったが、ここで主要な研究を紹介すると、未婚女性が結婚に対する不安を感じ貯蓄を積み増したこと（暮石・若林）、成人した子との同居は親の満足度に負の影響を与えていること（坂田・マッケンジー）貯蓄計画を立てる人ほど、借金返済のための借り入れをせず、特に、貯蓄決定者が妻の場合、その傾向が強い、という結果を得ている。（関田）などがある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project is to analyze the relationship between the change of the composition of family members (for example, becoming single and unmarriage, becoming extended family and nuclear family, and divorce) and the behavior of family. We did various researches, for example, Kureishi and Wakabayashi found that people who are not get married in near future increase their saving for precautionary motives because of the function of the marriage of risk sharing. Sakata and Mckenzie found that co-residence with a single adult child decreases the life and marital satisfaction of Japanese parents. Sekita found that individuals who have savings plan do not tend toborrow to pay off debts and the impact is strong especially when wivesmainly decide on savings and investments.

研究分野：経済政策、家族経済学、

キーワード：社会保障　家族経済学　家計行動　応用計量経済学

１．研究開始当初の背景

結婚や家族形成行動の分野において，ベッカーが果たしてきた役割は大きい．Becker (1973, 1974)によると，家計内生産における男女の労働の補完性から生じる分業の利益が結婚のメリットである．もし，結婚のメリットが低下すると非婚化や晩婚化が進み，離婚が増えることになる．以来，結婚や家族の問題について様々な観点から盛んに分析が進められている．そのように結婚のメリットが低下する状況で家族の役割を経済学の観点からどのように考えるか，またこのような状況下で家族がどのような経済行動を選択するのか,このことを研究し，政策に役立てることは非常に重要であると考えた.

２．研究の目的

本研究の目的は，離婚の増加や晩婚化・未婚化といった家族構造における近年の大きな変化と，家族を取り巻く（特に女性や高齢者の）経済的な選択・行動とがどのように相互に関連しているのかを明らかにすることである．さらにその結果から，法律や税制，社会保障（年金，医療，介護）における政策提言へと展開することをも目的とする．

本研究で計画している具体的な経済的選択・行動は次のものである：(1) 消費や貯蓄，借入の間の選択，(2) 有償労働と無償労働（家事，育児，介護，ボランティア活動など）と余暇の選択，(3) 出生行動のタイミング

３．研究の方法

我々は,家族の相互依存関係を，理論モデルを使って構築すること，家族の相互依存関係と経済行動の関係を分析する際に，内生性の問題を考慮することを重視した.特に，本研究メンバーは理論モデルに精通しているもの，計量経済学の手法に精通しているもの，社会保障や労働経済学，金融論に精通しているものがいて，家族の多様化に対応した理論モデルを構築し，精緻な実証分析を行うことができたと考えている.

４．研究成果

本研究課題では多岐に渡る研究を行ったが，ここで主要な研究を紹介すると，未婚女性が結婚に対する不安を感じ貯蓄を積み増したことから結婚のリスクシェアリングに対する役割を女性が認識して貯蓄を行っていること（暮石・若林）,成人した子との同居を行っている場合,親の結婚や生活に対する満足度が下がっていることから，子どもと親との同居目的が必ずしも一致していない可能性があること（坂田）,行動経済学的な観点からは，貯蓄計画を立てる人ほど，借金返済のための借り入れをせず，特に，貯蓄決定者が妻の場合，その傾向が強い，という結果を得ていて，計画が重要であることから家族の資産管理の重要性を指すことが示されたこと（関田）などが挙げられ,家族構造において，近年変化があったにもかかわらず，家族の役割が重要であることが示されたこと,また経済行動に関しては，人々は合理的に行動しているケースが多いものの，家族の役割に任せるばかりではなく，政府の役割も議論しなければならないことがわかった.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①Sakata, Kei and McKenzie, Colin. R.、Does the Expectation of Having to Look after Parents in the Future Affect Current Fertility?、Panel Data Research Center at Keio University

DISCUSSION PAPER SERIES、査読無、DP-2015-005、2015、pp. 1-31
http://www.pdrc.keio.ac.jp/en/results/discussion_papers.html

②暮石渉、殷テイ、退職後の消費支出の低下についての一考察、季刊家計経済研究、査読無、No. 105、2015、pp. 13-25
http://www.kakeiken.or.jp/jp/journal/jjrhe/backnumber100.html#n105

③暮石渉、殷テイ、退職後の消費支出の低下についての一考察、RIETI ディスカッションペーパー、査読有、15-J-001、2015、pp. 1-32
http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/15010004.html

④殷テイ、暮石渉、若林緑、主観的な所得の予想を使った恒常所得仮説の検証―中国のマイクロデータを使って―、RIETI ディスカッションペーパー、査読有、15-J-016、2015、pp. 1-30
http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/15040017.html

⑤Ito, Yutaka, Kawata, Keisuke, and Yin, Ting, Nonprofit/For-profit Facility and Difference of Wage Distribution: Evidence from the Japanese Elderly Care Industry, RIETI ディスカッションペーパー, 査読有, 15-E-073、2015、pp. 1-28
http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/15060006.html

⑥ 小川一夫、関田静香、年金制度改正と老後不安：家計のミクロデータによる分析、季刊社会保障研究、査読有、Volume 51、No. 1、2015、pp. 86-98
http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikan/5101.html

⑦ Sakata, Kei and McKenzie, Colin. R.、Does the Expectation of Having to Look After Parents in the Future Affect the Quality of Children?、Proceedings of the International Conference on Future Trends in Management, Economics and Human Behavior Study、査読無、2013、pp. 29-33

⑧ Kureishi, Wataru, and Midori Wakabayashi, What motivates single women to save? the case of Japan, 査読有, (2013), Review of Economics of the Household, 11(4), 681-704

⑨ Wataru Kureishi, and Keiko Yoshida, Does Viewing Television Affect the Academic Performance of Children? 査読有, (2013), Social Science Japan Journal, 16 (1), 87-105

⑩ Sakata, Kei and McKenzie, Colin. R.、The Effects of Parental Income on the Living Arrangements of Single Adult Children in Japan、Proceedings of MODSIM2011, 19th International Congress on Modelling and Simulation、査読有、2011、pp. 1401-1407

⑪ 暮石渉，退職者における予期しない出来事が生活水準と暮らし向きに与える影響，査読無，(2011), 季刊社会保障研究, 第 46 号第 4 巻 368-381

⑫ Kureishi, Wataru, and Midori Wakabayashi, Son Preference in Japan, 査読有, 2011, Journal of Population Economics, 24(3) 873-893

⑬ Horioka, Charles Yuji and Sekita,

Shizuka、The Degree of Judicial Enforcement and Credit Markets: Evidence from Japanese Household Panel Data、査読有、Volume 11、Issue 2、2011、pp. 245-268
DOI: 10.1111/j.1468-2443.2010.01123.x

〔学会発表〕（計 17 件）

①坂田圭、Does the expectation of having to look after parents in the future affect the current fertility?、日本経済学会秋季大会、2015 年 10 月 11 日、上智大学（東京都・千代田区）

②Sakata, Kei、Does the expectation of having to look after parents in the future affect fertility? 、The 79th International Atlantic Economic Conference、2015 年 3 月 14 日、ミラノ（イタリア）

□Yin, Ting、Nonprofit/For-profit Facility and Difference of Wage Distribution: Evidence from the Japanese Elderly Care Industry、第 17 回労働経済学コンファレンス、2014 年 9 月 14 日、大阪大学中之島センター（大阪府・大阪市）

④McKenzie, Colin. R.、Does the Expectation of Having to Look After Parents in the Future Affect the Quality of Children?、Tenth Annual Conference of the Asian-Pacific Economic Association、2014 年 7 月 11 日、バンコク（タイ）

⑤Wataru Kureishi, Time-inconsistency and the delay of childbirth, 2014 年 6 月, the European Population Conference 2014 , 6 月 27 日、Budapest(Hungary)

⑥Wataru Kureishi, Time-inconsistency and the Postponement of Childbearing, 2014 年 6 月 15 日, 日本経済学会 2014 年度春季大会, 同志社大学(京都府・京都市)

⑦暮石渉、殷テイ、若林緑、主観的な所得の予想を使った恒常所得仮説の検証―中国のマイクロデータを使って―、日本経済学会秋季大会、2014 年 6 月 14 日、同志社大学（京都府・京都市）

⑧McKenzie, Colin. R.、Does the Expectation of Having to Look After Parents in the Future Affect the Quality of Children?、International Conference on Future Trends in Management, Economics and Human Behavior Study、2014 年 5 月 4 日、バンコク（タイ）

⑨Wataru Kureishi, Commitments in Marriage and Under-savings, 2013 年 6 月 22 日, 日本経済学会 2013 年度春季大会, 富山大学（富山県・富山市）

⑩Wataru Kureishi, Commitments in Marriage and Under-savings, 2013 年 4 月 11 日, 2013 Annual meeting of Population Association of America, New Orleans（アメリカ）

⑪関田静香、リスク回避度と結婚のタイミング、日本経済学会秋季大会、2012 年 10 月 7 日、九州産業大学（福岡県・福岡市）

⑫Sekita, Shizuka、Risk Aversion and the Timing of Marriage: Evidence from Japan、Population Association of America、2012 年 5 月 5 日、サンフランシスコ（アメリカ）

⑬Wataru Kureishi and Midori Wakabayashi, Precautionary Savings and Single Women in Japan, Population Association of America、2012 年 5 月 5 日、サンフランシスコ（アメ

リカ）

⑭Sakata, Kei、The effects of parental income on the living arrangements of single adult children in Japan、International Congress on Modeling and Simulation、2011 年 12 月 15 日、パース（オーストラリア）

⑮暮石渉，Sibling Rivalry and Contest for Family Property Succession，2011 年 10 月 29 日，日本経済学会 2011 年度秋季大会，筑波大学（茨城県・つくば市）

⑯坂田圭、Why Do Japanese Parents and Their Young Adult Children Live Together?、名古屋大学経済学研究科ワークショップ「ゲーム理論とその応用」、2011 年 6 月 17 日、名古屋大学（愛知県・名古屋市）

⑰暮石渉，未婚女性の結婚に対する期待・不安と予備的貯蓄，日本経済学会 2011 年度春季大会 2011 年 5 月 22 日，熊本学園大学（熊本県・熊本市）

〔図書〕（計 4 件）

① Sakata, Kei and McKenzie, Colin. R.、Springer 、Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective、2016、pp.207-227

② 殷テイ、毎日新聞社、中国年鑑 2015、2015、pp. 364-368

③ 暮石渉，早期退職と生活水準，(2012)，『日本社会の生活不安　自助・共助・公助の新たなかたち』西村周三監修，国立社会保障・人口問題研究所編，慶應義塾大学出版会，127-153

④ 暮石渉，若林緑，独身女性は予備的貯蓄をなぜ積み増すのか，(2012)，『新たなリスクと社会保障　生涯を通じた支援策の構築』井堀利宏編，金子能宏編，野口晴子編，東京大学出版会，149-167

６．研究組織

(1)研究代表者

若林　緑 (WAKABAYASHI, Midori)
東北大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：60364022

(2)研究分担者

暮石　渉 (KUREISHI, Wataru)
国立社会保障・人口問題研究所・第 4 室長
研究者番号：00509341

マッケンジー・コリン・ロス (McKENZIE, Colin, Ross)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：10220980

坂田　圭 (SAKATA, Kei)
立命館大学・経済学部・教授
研究者番号：60346137

関田　静香 (SEKITA, Shizuka)
京都産業大学・経済学部・准教授
研究者番号：30583067

殷　テイ (YIN, Ting)
独立行政法人経済産業研究所・研究員
研究者番号：00707888